

## 令和3年第4回岩国市議会定例会会議録（第1号）

○8番（武田伊佐雄君） おはようございます。8番 憲政会の武田伊佐雄です。

去る6月20日、岩国青年会議所主催で、市内の高校生によるまちづくりの提言がユーチューブ配信によって行われました。これは、福田市長も高校生の提言に大変期待をされ、事業の告知にも協力されていまして、注目しておりました。

8年前にも高校生による提言が行われましたが、今回はコロナ禍にもかかわらず、多くの生徒さんが参加され、複数回にわたり協議されたすばらしい提言が発表されました。福田市長、守山教育長におかれましては、審査員として出席されておられましたので、高校生の提言をしっかりと胸に受け止められておられることと思っております。

私は、岩国の豊かな自然を生かした提言が多く、多くの発表に共通していたような印象を受けました。中山間地域で育った私としても、多くの方に自然の魅力を感じていただきたいと思っております。

また、高校生のような若い世代が市政に高い関心を持つような取組が定着することを期待しております。

それでは、通告に従い一般質問を行います。

1、中山間地域振興における観光について伺います。

（1）各計画と所管について伺います。

中山間地域における観光については、複数の計画が関連して存在し、それぞれに担当課があります。そこで、中山間地域の資源を生かした観光施設を整備する際の所管について確認をしたいと思います。

岩国市中山間地域振興基本計画には、施策の柱の一つに「地域資源を活かした多様な産業の振興」があり、その基本方針の一つには「中山間地域に存する技術、人材その他の資源を活用した新たな事業の創出及び育成を図ること」があります。

また、岩国市過疎地域持続的発展計画では、産業の振興について、観光の開発について記載があることから、中山間地域振興課の所管についてお示しください。

中山間地域といえば、各総合支所が設置されていることから、地域資源を一番理解しているのは支所長ではないかと考え、これまでも第2次岩国市総合計画後期基本計画において、どのような地域づくりを目指されるのか質問してまいりましたが、総合支所の所管についてお示しください。

そして、同様に、第2次岩国市総合計画後期基本計画にある観光交流の推進の観点からは、岩国市観光ビジョンを策定された観光振興課の所管についてもお示しください。

具体的な例があったほうが分かりやすいかと思っておりますので、全国に33か所あるフォレストアドベンチャーという自然共生型アウトドアパークを中山間地域振興の起爆剤として整備することを想定してお答えいただけたらと考えております。

なお、規模として、私が調べた施設の平均は面積が約1ヘクタールで、建設費が本体価格ではありませんが、約4,000万円です。

（2）これまでの取組と評価方法について伺います。

今定例会初日には、諸般の報告として、中山間地域の振興に関する施策の実施状況等について報告がありました。観光の施策としては、錦町しか記載がありませんでした。

近年、基本計画にあるような資源を活用した新たな事業の創出がなされたようには私は受け止めていないのですが、これまでの取組を伺います。

また、現在、中山間地域振興基本計画の中には、目標値として設定されているのが、とことこトレイ

ンの年間利用者数、ムーバレーの年間利用者数、オアシスゆうの年間利用者数となっています。これらの施設を利用された方が周辺地域にもたらす経済効果を見なければ、起爆剤としての価値が見いだせないと考えられるのですが、その点について見解をお聞かせください。

続いて、2、科学センターについて。

(1) テーマとコンセプトについて伺います。

黒磯地区に整備される科学センターのテーマとコンセプトについては、前回質問した令和元年9月の時点では、検討委員会において協議するという答弁で終わっていましたが、現在では内容も確定していると思いますので、どのように決まっているのかお示してください。

あわせて、コロナ禍で計画が遅れていないのか、今後の予定についてもお示してください。

(2) 外部団体との連携について伺います。

少し厳しいことを蒸し返すようですが、これまでの一般質問において、1年や2年の短期間で館長の異動があるので、腰を据えて取り組んでいただきたいと提言しましたが、今年も館長の異動がありました。核となる人がいないのではないかと危惧しますが、その後の進捗を伺います。

(3) 人員配置について伺います。

新しく整備される科学センターと現在の科学センターの運営について、必要な人員は大幅に変わってくると思います。外部団体の連携も視野に入れ、準備段階からどのように人員が必要となってくるのか、これまでに検討してきた見解をお聞かせください。

(4) 運営に関する予算について。

これまで科学センターの運営については、限られた予算の中で、涙ぐましい努力をされている様子を見てきました。

その反面、しっかりとした予算取りがなされていないのではないかとという危惧も指摘してきたつもりです。人員配置による予算要求も必要でしょうが、講座を開くにも適切な予算を確保していただきたいと懸念しております。今後どのように考えているのかお示してください。

以上で、壇上からの質問を終わります。

**○市長（福田良彦君）** それでは、武田議員御質問の第1点目の中山間地域振興における観光についてお答えいたします。

まず、(1)各計画と所管についてでございますが、平成26年12月に策定した岩国市中山間地域振興基本計画は、平成30年度に前期の期間が終了し、平成31年度に、さらに実効性の高いものとなるよう計画の変更を行うことで、平成31年度から令和4年度までの4年間を計画期間とした後期基本計画を策定いたしました。

この計画において、社会情勢の変化や中山間地域を取り巻く環境の変化に対応するため、「安心・安全で暮らしやすい生活環境の整備」「持続可能な地域社会の形成」「地域資源を活かした多様な産業の振興」の3つの柱に沿って、様々な施策を体系的に整理をし、総合的かつ計画的に取り組んでいくこととしております。

本定例会に提案しております岩国市過疎地域持続的発展計画は、令和3年度から令和7年度までを計画期間とし、地域社会を担う人材の確保、地域経済の活性化や集落の維持及び活性化、農地、森林の適正な管理などの過疎地域の課題を解決し、地域活力向上の実現を目的とした、いわゆる新過疎法の目的を実行するための計画としております。

これらの計画における中山間地域振興課の所管としましては、山口県や関係機関と連携し、法令等に基づき、各計画の策定や変更・進行管理に係る事務の円滑な推進に努めることとしております。

一方、各計画に示されている観光に関する新たな事業の創出や観光開発などの事業の推進につきましては、その事業を担う部署と観光振興課が連携して取り組んでいくこととしております。

議員御提案のフォレストアドベンチャーは、現在、世界中に広がっているフランス発祥の自然共生型アウトドアパークで、日本でも30か所以上建設されるなど、大変人気のある施設であると承知をしております。

また、先般、市内で高校生によるまちづくりに関するプレゼンテーションが行われ、私も審査員として参加した中で、本市の地域資源となる自然を生かしたアスレチック施設や森林セラピー、アクティビティの発信など、中山間地域における観光に関連する提言を頂きました。

これまで同様に、新規事業の提案や要望等を頂いたときには、私をはじめ、関係部署等において、まずはお話を伺わせていただき、様々な観点から調査・研究をし、そして実現の可否を判断することになります。

市としましては、今後の取組の中で、将来を担う高校生など、若い方々の意見も参考にさせていただきながら、観光振興等の施策の推進に努め、中山間地域の活性化につなげてまいりたいと考えております。

次に、(2) これまでの取組と評価方法についてであります。岩国市中山間地域振興基本計画における観光施策につきましては、自然資源や歴史・文化資源、そして地域の食材・食文化を発掘、そして活用し、都市と農山漁村との交流や体験学習の充実を図ることや体験型旅行の誘致・推進により、地域全体で都市部からの住民を受け入れ、地域住民と都市部の方々との交流を深めることを主な内容として、体験型観光の推進に取り組むこととしております。

主な取組としましては、都市部からの修学旅行生などの受入れを行う体験型教育旅行を実施しております。錦町、美川町、美和町、本郷町、周東町を受入れ地域として、やましろ体験交流協議会が中心となり、錦川やその支流などを使った沢トレッキングや草木染め、コンニャク作りなどの各種体験メニューを提供するとともに、各地域の家庭による民泊を実施し、訪れた皆様に里山の魅力を体験していただいております。

令和2年度までの実績としましては25件で、約2,000人の修学旅行生などを受け入れている状況であります。

また、本市の中山間地域は、旧岩国市の市街地を除く全ての地域が該当となっており、とことこトレイン、美川ムーバレー、弥栄湖及びその周辺のレジャー施設、らんかん高原、潮風公園みなとオアシスゆう、丸太村などの観光スポットや特産品、温泉など多くの魅力的な観光資源を有しております。

こうした中山間地域の観光資源を多くの皆様に知っていただき、訪れていただくため、本市の観光ホームページ「岩国 旅の架け橋」やSNS等を通じ、積極的な情報発信を行っているところであります。

具体的には観光ホームページにおいて、大自然の中のキャンプ場やバイクで巡る観光ルート、ペット連れで楽しむことができる施設を紹介するとともに、インスタグラムにおいては、フォトコンテストを通じ、新たな観光スポットを発掘するなど、観光資源の魅力の向上や観光モデルコースの紹介などに取り組んでおります。

また、市内の5つの観光協会及び岩国商工会議所を構成団体として設置されている岩国観光プロモーション推進協議会におかれましては、自然、温泉、特産品などのジャンル別に市内全域を紹介する総合観光パンフレットの作成や市内周遊を促す温泉パスポート、広域の謎解きゲームなど、各種イベントを実施され、関係機関が一体となって、観光プロモーションに取り組んでおられます。

こうした中山間地域の観光施策における施策目標としましては、第2次岩国市総合計画後期基本計画と整合を図るため、とこととトレイン、美川ムーバレー、潮風公園みなとオアシスゆうの年間の利用者数を設定しているところであります。

施策の成果をはかる上では、こうした年間の利用者数による数値目標が最も分かりやすい指標であると考え、設定をしておりますが、議員御提言の施設利用者が周辺地域にもたらす経済効果を把握するというのも、今後、中山間地域における観光施策を進めていく上で重要な視点であるというふうに認識をしており、経済効果の測定方法についても、研究をしてみたいというふうに考えております。

いずれにいたしましても、市としましては、地域の方々をはじめ、関係機関・関係事業者等とより一層連携し、市内観光スポットの周遊を促す仕掛けづくりや本市の観光資源を活用した観光体験メニューの充実を図り、中山間地域の有効な観光施策について、その効果を見極めながら推進できるよう、今後とも取り組んでまいりますので、よろしくお願いをいたします。

**○教育長（守山敏晴君）** 第2点目の科学センターについてお答えいたします。

まず、（1）テーマとコンセプトについてですが、教育委員会では岩国市教育基本計画において「志高く豊かな心と生き抜く力を育む」を基本目標としております。新たな科学センターにおいてもこれを踏まえ、コンセプト及び基本方針を定めております。

コンセプトですが、「サイエンスフィールド岩国の形成～まるで化学結合のように地域全体の人・場所・テーマを結びつける～」としています。

科学センターが設置されますいこいと学びの交流テラスは、「交流」を大きなテーマとしていることから、これにのっとり、多世代にわたる人、市内全域の科学スポット、自然科学や防災科学などの幅広いテーマを結びつけることにより、新しい学びのフィールドを形成することを目指しております。

また、コンセプトを実現するために次の5つの基本方針を定めております。

1点目は、学校教員と共に創り出す、科学好き少年・少女を育み支える学びの場です。これは学校教員を中心とする科学クラブの指導員と科学センターの指導員・専門職員が協力し、新たな科学センターの施設・設備を生かし、充実した理科教育プログラムの提供、クラブ活動の支援を行い、学校による活用を目指すものです。

2点目は、地元ゆかりの科学者・技術の情報発信です。地元ゆかりの科学者の業績や企業の技術を紹介し、子供たちが研究者を目指す夢を育むものです。

3点目は、豊かな自然を活かし、全身で遊んで学べるわくわくする科学センターです。建設予定地である黒磯地区の豊かな自然、絶好のロケーションを生かすとともに、併設される自然交流施設の親水池や植栽を生かした自然環境体験等、ファミリー層で遊んで学べる「わくわくする科学センター」を目指します。

4点目は、自然災害時に自ら考え、行動できる市民を育てる防災科学教育です。世界的規模の異常気象の背景、気象衛星による災害予測を学ぶとともに、岩国で起こり得る災害のメカニズムと、一人一人の命を守ることを学ぶ水の防災科学館を目指します。

5点目は、岩国ならではの魅力の追及による、個性と魅力あふれる科学センターです。錦川、広島湾など豊かな水環境により発展してきた岩国市ならではの理科・環境・防災教育プログラムと、組織改編により今年度から科学センターに加わったマイクロ生物館がこれまで取り組んできた教育事業の強化・発展を図ることで、全国唯一の魅力や機能を有する科学センターを目指します。

これら5つの基本方針のうち、「学校との連携」については、特に力を入れて取り組んでまいりたいと考えております。

また、令和元年9月定例会において、スケジュールについて答弁させていただいております。内容といたしましては、岩国市科学センター整備検討委員会を10月下旬に立ち上げ、令和元年度中に展示の基本的な考え方や展示テーマについて検討し、令和2年度には展示テーマに沿って展示の取りまとめを行い、令和3年度には管理運営体制の検討、令和4年度には学校と連携した学習拠点の内容等を取りまとめ、その後は、管理運営に向けた委員会に移行するとお答えいたしました。

その後の状況ですが、整備検討委員会を令和元年12月に発足させ、令和元年度に3回、令和2年度に4回開催し、展示のテーマやゾーニング及び構成等について検討してまいりました。

今後につきましては、令和4年度末までに展示の詳細設計を含め、施設全体の実施設計を行うこととしております。特に、施設整備につきましては、整備検討委員のうち施設管理に精通された方からなる分科会を年内に3回開催する予定です。その中で、新たな科学センターの詳細計画や展示のゾーニング、事業運営等に関する検討を行い、その検討結果を基に令和6年度・7年度において必要となる備品等の整備や人材の確保について具体的な対応を進め、令和8年度の開館を迎えたいと考えております。

次に、(2) 外部団体との連携についてですが、先ほど述べました5つの基本計画を実現していくためには、地元企業をはじめ、大学や研究機関等との連携が必要であると考えております。

整備検討委員会のメンバーには、山口大学技術移転機関の代表者をはじめ、岩国工業クラブや岩国商工会議所の代表者も加わっていただいておりますので、こうした委員を通じて各機関、団体との連携をより密にしながら、新たな科学センターの整備及び運営に関し、協力体制を築いてまいりたいと考えています。

昨年度までの取組状況としましては、岩国商工会議所の会員企業で科学に関係する企業との連携や、国内の研究機関への協力依頼を行うこととしておりましたが、いずれも新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、実現に至っていないという状況です。これらも新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、可能となれば取り組んでまいりたいと考えております。

また、現在も可能な範囲で、株式会社東芝をはじめとした企業、研究機関、大学等と連携した事業を行っております。

次に、(3) 人員配置についてですが、センターで行う事業等運営に関しては、整備検討委員会において、現在、検討している段階ですので、この検討結果を基に実施する事業を定め、専門職員等の人材を含めて、開館に向けて体制の構築をしてまいりたいと考えております。

最後に、(4) 運営に関する予算についてですが、これにつきましても、整備検討委員会による検討結果に基づき定めた事業について、実施するために必要となる備品や人的配置を含めて予算確保に努めてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

**○8番(武田伊佐雄君)** それでは、再質問を行います。

まずは、科学センターについて伺います。

令和元年の9月定例会の頃に検討されていたように、やはり「学校との連携」にはかなりの思いが入っていることを確認いたしました。

そこでお尋ねしますが、これまでには「児童・生徒さんたちに、年に1回は授業の一環として科学センターで学習できる環境をつくりたい」という思いを耳にしてきたと記憶しております。その思いに変わりはないのかお伺いします。

**○教育次長(三浦成寿君)** 先ほど教育長が壇上で答弁いたしました。新しい科学センターの運営におきましては、これまで以上に学校との連携が重要になってくると考えております。

特に、学校では困難な体験学習を授業の一環として科学センターで実施するという事は、学校との

連携を強固にしていく上で非常に有効な手段であると考えております。

しかしながら、児童・生徒の移動手段や授業時数、またどの単元を扱うかなど、様々な課題が存在しているのも事実であります。今後はこれらの課題について、新たに設ける運営委員会等で検討して、小・中学校等と調整を図ってまいりたいというふうに考えております。

**○8番（武田伊佐雄君）** 今年度の児童・生徒数、学級数を確認したところ、少人数学級を含みますが、現在450のクラスがあります。科学センターには、実験室1、実験室2、工作室の3つの教室が設計されていますが、用途は別々に設計されていると認識しております。平日として150日を科学センターで学習したとしても、年間の運営計画つくるのは容易ではないことが予想されます。

また、児童・生徒数に関しても、少子化の関係で減少したとしても、1学年5クラス程度の学校もあると思いますし、少人数のクラスでは学校内や、また近隣学校との合同で学習を行うといった場合も考慮すると、計画の幅も広がりますので、現在、詳細設計の段階に入っているわけですから、運営自体はまだまだ先のことで、細かいことは検討されると思うんですけど、概略ぐらいは立てておいたほうがよいのではないかと考えるんですがいかがでしょうか。

**○教育次長（三浦成寿君）** 先ほども申し上げましたが、どの程度の学校、クラスがこの科学センターのほうに来てもらえるかというのは、学校行事とのすり合わせ等も行う必要があります。

そうすると、できるだけ学校の授業等が決まるのに近い段階でそういう仕組みを検討していくほうが――現段階で学校行事とのすり合わせをしても、その後にまた変わっていくというようなことも考えられますので、そうしたことをちょっと今、想定はしながら、概略でということではありますが、より具体的なところを考えながらやるとすれば、少し時期的には、今の段階では早いのではないかなというふうに考えております。

しかしながら、想定といいますか、どこの学校をどうするというような具体的などころではなくて、ある程度この施設でどんなことができる、またクラス数としてはどのぐらいのクラスができるというような、そういうところについては検討を進めてまいりたいと思っています。

**○8番（武田伊佐雄君）** 先ほど科学センターのテーマとコンセプトを確認して、その中で学校との連携に一番力を入れられるという話を答弁いただいたと思うんですね。

その思いについて、これまでと変わりがいいのかという思いを確認したんですが、そのところは明確にお答えいただけませんでした。なぜそれを聞くかというと、今後いろいろ検討していく中で、初めの思いがぶれないように私は確認したかったわけです。でなければ、岩国というところは面積が広いですし、次長がおっしゃったように、特に移動に関しては結構なハードルになると思うんですね。そういったときに、中心部だけはやるけれど、中山間のほうの学校は来れなくなったとかというふうなことになるかぬないところがあるので、まずスタンスとして、そのところがぶれていないのかというのを伺いたかったわけです。

これからせっかく多額の予算を投入して、そういった整備をされるわけですから、しっかり教育委員会のほうとしても、どういう教育を本市の子供たちに向けて発信したいという、軸がぶれないようにしっかりと協議していただくことを提言しておきます。

それでは次に、展示の基本的な考え方、展示テーマについてお示してください。

また、「地元ゆかりの科学者・技術の情報発信」についても、検討した内容を併せてお示してください。

**○教育次長（三浦成寿君）** 展示の基本的な考え方についてですが、施設内外のつながりを意識しまして、科学センターの学びが様々な好奇心を呼び起こす「岩国サイエンスフィールド」と見立てて展示を構成してまいりたいと考えております。

次に、展示テーマについては、6つのテーマを軸に展示の構成を計画しております。

まず、1つ目は、科学を体感し、生きるチカラを育む、2つ目として、瀬戸内ネイチャーサイエンス、3つ目として、災害を科学し、命を守る防災力を育む、4つ目として、顕微鏡から生命を見つめる、5つ目が、郷土の科学、それから6つ目が、全身で遊んで学ぶ科学体験ということで、理科離れが社会問題となっております中で、子供たちが遊び場を通じて科学に触れられる「科学の入り口」を設けることは、科学センターが果たすべき重要な役割の一つと考えております。

これを踏まえ、屋内外の展示の随所に多彩な科学の入り口を設けたいと考えております。生命のぬくもり・大切さを体感できる展示、知育玩具や手作り科学遊具の展示・体験、顕微鏡を利用したミクロの世界の体験、屋外の自然交流施設を利用した野外体験など、誰もが科学の魅力に気づいていただける工夫をちりばめていきたいと考えております。

これらの体験を通じて、科学の面白さに気づいた子供が一步進んで、理科好きに育つように、教科書の単元とそれを応用した身の回りの技術を体感的に関連づけて学べる展示を行うこととしております。

次に、「地元ゆかりの科学者・技術の情報発信」についてですが、岩国市には、ゆかりのある多くの偉人がおられます。科学技術、理数科分野で申しますと、日本のエジソンと形容されました藤岡市助氏、それから明電舎を開業された重宗芳水氏、数学者の広中平祐氏、触媒化学の発展に貢献された相馬芳枝氏などたくさんおられますが、整備検討委員会では、これらの方々の功績や研究内容を調査・研究するとともに、地元企業の科学技術等を紹介する郷土の科学コーナーの設置について検討しているところでございます。

それと、先ほど議員も言われましたが、学校とのつながりについては、十分基本的なところでありますので、そこはぶれないように、この科学センターの事業も進めてまいりたいと考えております。よろしくお願いたします。

**○8番（武田伊佐雄君）** 今お答えいただいた展示テーマの2から5というのは、言葉を聞いて何となく想像できるんですけど、テーマ1の「科学を体感し、生きるチカラを育む」というのと、テーマ6の「全身で遊んで学ぶ科学体験」というのは似たように思えるんですが、どのように違うのでしょうか。

**○教育次長（三浦成寿君）** 1と6とは、いずれも科学の体感をテーマとしておりますが、1のほうにつきましては、屋内展示を対象としておまして、手作りの科学遊具等、手に取って触れることによって科学の原理、それから仕組みを理解してもらおうといったものを想定しておまして、6の「全身で遊んで学ぶ科学体験」、これにつきましては屋外に整備されます親水池や植栽等の自然交流施設を生かした自然観察など、野外体験を想定しておるところであります。

屋内展示だけでなく、屋外の施設の活用にも力を入れたいということで、あえてこの2つをテーマの中に分けて入れているというところでもあります。

**○8番（武田伊佐雄君）** 施設の内外で分けてというところであれば、もう少しちょっとテーマの表現方法についても、似たような言葉じゃなくて、よりよい表現はないのかなと感じるところではあります。

以前、屋内に整備するものとして、科学の基本から最先端まで充実した内容を有する展示室、科学センターを窓口には様々な科学情報にアクセスできるコーナーという答弁がありました。これらに変更はありませんか。

**○教育次長（三浦成寿君）** 検討の中で、そうした検討も行っており、まだ引き続き変わりにくく検討している状況であります。

**○8番（武田伊佐雄君）** 展示については、物理学、化学、生物学、地学といった広い分野の中から、

詳細は今後検討されていくことと思います。限られた展示スペースになると思いますが、どのような原理を用いた展示が選ばれるのか楽しみにしておきます。

ところで、生物、水というキーワードから、国の特別天然記念物に指定されているオオサンショウウオが、錦川の支流である宇佐川に本州最西端の地として生息していることを思い起こさせるのですが、こちらの情報発信についても検討されているのかお尋ねいたします。

**○教育次長（三浦成寿君）** 展示テーマの一つであります「瀬戸内ネイチャーサイエンス」には、錦川・瀬戸内海地域の自然・生態系を学ぶことが含まれております。オオサンショウウオは、錦川における自然・生態を学ぶ上で非常に貴重な教材だというふうに考えております。

また、オオサンショウウオについては、特別天然記念物ということで、関係する部署も様々ありますので、そうした機関とも連携して協議を行いながら、このような情報の発信についても進めてまいりたいと考えております。

**○8番（武田伊佐雄君）** では次に、外部との連携について伺います。

これまでのように科学の祭典などのイベントに出展していただいたり、講演をいただくだけでなく、東京の科学技術館のように、休日や長期の休みの時期にボランティアとして一緒に運営していただける関係が築けないのかと提言してまいりましたが、そのあたりはいかがでしょうか。

**○教育次長（三浦成寿君）** 議員御指摘のとおり、現在の科学センターと外部関係団体との協力体制は、主に科学クラブの活動とか、科学の祭典、それからサイエンスセミナー等の特定の事業に関わるものに限って行っているという状況でございます。

今後は、そのような方々が気軽に科学センターに立ち寄ってこられる中で、簡単な講座とか、教室などを協働して実施することについて、リモート方式等も含めて可能性を探ってまいりまして、関係する団体の指導者や教職員、そして企業関係者の方々とも関係の構築に努めてまいりたいと考えております。

**○8番（武田伊佐雄君）** ジュニア指導員との取組はどのようになっているかお聞かせください。

**○教育次長（三浦成寿君）** まだ現状では、新しい施設でどのようにジュニア指導員を配置していくかということについては、具体的には決定に至っておりませんが、何らかの形でしっかり新しい科学センターの中に入り込んでいただいて、小学生たちの科学への導きといいますか、そういう部分でしっかりと活躍できる場を設定していけるといいという方向で検討を進めております。

**○8番（武田伊佐雄君）** 平成30年第1回定例会の一般質問だったと思いますけれど、平成30年度に新しい取組としてジュニア指導員の取組を検討していくというふうな御答弁をいただいていると思いますが、これまでの経緯についてお聞かせください。

**○教育次長（三浦成寿君）** 新しい施設での取組ということですので、まだ具体的にどのように入っていただくというようなところまで検討できていないというのが実情であります。

**○8番（武田伊佐雄君）** 平成30年のときの答弁は、新しい科学センターでの取組ではなく、現状の科学センターでの取組として御答弁いただいていることと認識しておりますが、いかがでしょうか。

**○教育次長（三浦成寿君）** 今、科学の祭典とか、そういうところについてはしっかりいろいろと入って、そのイベントといいますか、その催しの中で、スタッフとしても活躍していただいていますし、自らが学ばれた内容を発表していただくというような機会も設けておりますので、そういう意味では、現在もジュニア指導員についてはいろんな形で、その科学センターの取組に協力をいただいているところであります。こうした取組をもっと拡充して、新しい科学センター等の事業運営に生かしていけるようにしてまいりたいと考えております。

**○8番（武田伊佐雄君）** 今の答弁でちょっと疑わしいのは、教育委員会としてしっかり科学センター

のことは見ておられるのかという疑問を抱きます。昨年度末から、科学センターのホームページの情報がすごく少なくなっていることを教育委員会としては把握されておられますか。

○教育次長（三浦成寿君） 昨年度末から現在にかけて少なくなっているということでもありますかね。ちょっとそこについては、申し訳ありません、確認できておりません。

○8番（武田伊佐雄君） 先ほども申しましたが、かなりの施設を整備されていくわけですから、科学センターのほうに任せるだけではなくて、教育委員会のほうとしてもしっかり見守って、場合によってはアドバイスとかサポートとかという体制を組んでいただければなというふうなことを思いますので、その点、改めて提言させていただきます。

次に、まだちょっと時期が早いかもしれませんが、交流センターの建設の参考として視察に訪れた「ふじざくら」では、子供たちが無料のシャトルバスで施設に訪れていたことを取り上げ、これまでも本市で子供が訪れやすい環境を整えていただきたと提言しておりますが、現在、アクセス道路についても検討中だと思いますが、現時点で伺えるものがあればお示しください。

○都市開発部長（山中文寿君） 黒磯地区のいこいと学びの交流拠点、こちらへのアクセスについては、現在、3方向からのアクセスを考えております。

1つ目は、現道の国道188号からのアクセスです。

2つ目は、藤生長野バイパスからのアクセスを考えております。こちらの藤生長野バイパスにつきましては、国のほうの事業でありますけれども、来月の10月21日から計画案の説明会をされるというふう聞いております。そちらからのアクセスにつきましては、現在、県のほうで検討中と伺っております。

3つ目のアクセスですけれども、こちらは藤生駅の西側のほうからのアクセスを、こちらは市のほうが事業をするということで、現在、検討しております。今、地権者等々と、現在、意見交換をさせていただいているというところでございます。

○8番（武田伊佐雄君） それでは次に、中山間地域振興の観光について伺います。

先ほどの答弁において、中山間地域振興課の所管としては関連部署との連携を行い、事務の円滑な推進に努めることと理解しました。

では、このたび提案していますフォレストアドベンチャーなどの観光の核となる施設を中山間地域に整備する場合に、どの部署が中心となって取り組まれるのかお伺いします。

○市民生活部長（小玉陽造君） 議員御質問のどの部署が中心となって取り組むかについてでございますが、基本的には2つのケースが想定されるものでございます。

1つ目といたしましては、整備場所が具体的に定まっている場合には、その整備場所を所管いたします総合支所が中心となって取り組んでいくことが想定されます。

また、2つ目といたしましては、どこに整備するか場所が決まっていない場合であって、この場合で申しますと、ターゲットが観光施設ということでございますので、観光振興課が中心となって取り組んでいくことが想定されます。

いずれにいたしましても、取りかかりがどの部署であっても、市として取り組むことには違いございませんし、当然、中山間地域振興課といたしましても、関連部署の一つとして参画いたすこととなります。その結果、どちらで提案された場合でも、中山間地域振興課の役割としては同じようなものになると考えております。

○8番（武田伊佐雄君） はい、分かりました。

やましろ体験交流会の実績をお示しいただきましたが、その中に周東町が受入れ地域とありましたが、

地域的には少し玖西と玖北という感じで違和感を覚えるのですが、御紹介いただいた実績についての詳細をお聞かせください。

**○錦総合支所長（沖 晋也君）** 体験型教育旅行について、どの地域で、どのような体験を行っているかお答えいたします。

錦地域では、草木染め、ラフティング、錦川鉄道を利用した列車運転などの体験、美川地域では、沢トレッキング、美川ムーバレーにおける地底王国探検などの体験、美和地域では、コンニャク作り・そば打ちなどの体験、本郷地域では、山村留学センター宿泊、神楽見学などを体験していただいております。

また、これらの体験後は、いずれの地域におきましても民泊を実施し、民泊受入れ家庭との触れ合いの場となっております。

それから、お伺いの周東地域でございますが、周東地域につきましては、民泊による田舎暮らしの魅力を体験していただいているところでございます。

**○8番（武田伊佐雄君）** 周東地域のほうは、サポートのような関わり合い方だというふうに認識しました。

それでは、玖北地域を中心に体験型観光の取組が行われているのは報告書を見ても分かるのですが、同じ中山間地域である由宇地域や玖西地域では、そのような取組が見えないと感じております。

全国的には、農泊体験ツアーといった農家民宿や古民家などに宿泊しながら、日本ならではの伝統的な生活体験や農村地域の人々との交流を楽しみ、その土地の魅力を味わってもらう農山漁村滞在型旅行もインターネットで検索できる状況があります。

由宇地域や玖西地域、柱島群島でも、交流人口を増やすためにこのような取組がなされているのか、お聞かせください。

**○産業振興部長（加納芳史君）** まず、玖北地域につきまして少し補足をいたしますと、この地域では、地域の方々にも元気になっていただく取組といたしまして体験型教育旅行の受入れを地域の主導で実施されてきた経緯がございます。

現在も、この地域の活性化を担う重要な取組となっております一方で、柱島群島では、「みどころマップ」を作成いたしまして、島の魅力をPRしたりですとか、学校行事といたしまして、豊かな自然を生かして、市内の小学生と島の方々による自然教室も実施されているところでございます。

それから、由宇地域では、美しい浜辺を持っております潮風公園みなとオアシスゆうでありますとか、カープの由宇練習場、あるいは特産品の由宇トマト、それから玖西地域のほうでは、木工体験施設でありますとか、バーベキュー棟などを備えた丸太村ですとか、特産品の高森牛、こういった地域の特有の資源がございますことから、これらを活用することで、観光を主体とした交流人口の拡大を図ってまいっているところでございまして、地域の活性化に努めております。

市内各地の中山間地域では、言葉の上では中山間という一くくりになっておりますけれども、申し上げましたように、地域の実情や特性に応じた取組を行うことが大切と考えているところでございまして、今後も地域の方々でありますとか、各観光協会などとの連携はもちろんのことですが、市全体の有機的なつながりを深めて発信していきますと同時に、各総合支所、それから担当部署などがおのおの役割を主体的にしっかりと果たしていきながら、特色のある地域の活性化を図ってまいりたいと考えているところでございます。

**○8番（武田伊佐雄君）** 観光の起点となる施設から周辺に与える経済効果の把握については重要だと認識されている御答弁を先ほどいただきました。中山間地域振興から本市全体の観光振興につなげると

いった気概を持って取り組んでいただきたいと思います。

最後に、高校生からも提言があったような中山間地域に観光の起爆剤となるような自然共生型の施設整備について、高校生からの多くの提言を受け止められた福田市長のお考えをお聞かせください。

**○市長（福田良彦君）** 先般「Class Biz.」におきまして、岩国青年会議所の主催で高校生の提言を頂きましたが、武田議員御承知のとおり、今から8年前ですか、平成25年にも、今のように青年会議所のほうから、同じように10年後を見据えた高校生の提言がございました。

当時、武田議員が青年会議所の実行委員長として企画されたわけでありまして、私も当時のことをよく今でも覚えておりますが、当時は市議会のほうでは武田正之議長でございまして、議長とともに、そのプレゼンをシンフォニアでお聞きしました。

当時の高校生の地域に対する思いとか、いろんな提言を今、総合計画に盛り込みまして、資料として入れております。改めてその資料を見たときに、やはり当時の高校生たちがいろんな提案をされております。特に、公園の施設の充実、スペシャルな公園を造ってほしいというのがありました。

それは、そういったことを踏まえて、今、ふくろう公園とか、スパ・サンライズ等が整備されておりますし、また当時の高校生が、岩国駅を若い者が集えるような、そういった魅力のあるものにしてほしいという声が結構多かったわけでありまして、まさに今、今日、今回の定例会でも上がっております「みんながつながる タマリバ空間」としてこれから整備をしていこうということでありまして、そのほか多岐にわたって高校生から提言を頂きました。

今回も幅広い観点からの提言がございましたが、具体的に武田議員のほうから、中山間地域の振興についても、高校生から幾つかございました。先ほどちょっと御紹介してもらいましたが、アクティビティとか、アスレチック、様々な観点からその可能性について、斬新な、また奇抜な御意見もございました。

これから市といたしましては、ぜひそういった声も参考にしながら、まずは私も今いろんな観点から、フォレストアドベンチャーの話もございましたけれど、今、いろいろな全国で展開されている施設、またこれから今の働き方改革とか、地方の魅力をさらに発信していく中で、地方がもっと輝いていく中で、今、岩国が持っている宝物といいますか、自然とか、こういったこともしっかりと生かせるようにいろんな施設——これは民間へのお願いもしなければいけない部分あるかもしれませんが、やはりその地域に雇用とか経済とか、またほかには宿泊とか公共交通の利用とか、そういったところに波及するような施設が一番望ましいわけでありまして、そういった地域への波及効果を含めて、どういったものを岩国に持ってこれるか、しっかりと探求をしてまいりたいというふうに考えております。

**○8番（武田伊佐雄君）** 市の中心部で生活している方々にとって、中山間地域に意識が向く機会は少ないのではないかなと個人的には感じておりますが、よく水の流れば山から始まると言われております。人々の生活にとって切り離すことができない自然に、自然と向き合える楽しい場所ができる未来を期待して一般質問を終わります。